

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2023年5月24日 (Vol.177)

『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』月暦図と俳句ーその1、4月・5月・6月

『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』月暦図と俳句

ーその1、4月・5月・6月



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Les_Tr%C3%AAs_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_septembre.jpg

9月『ぶどうの収穫』

『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』とはフランス王の弟で、中世を代表する芸術パトロン、ビブリアオフィル（書籍愛好家）として知られたベリー公ジャン 1 世（1340-1416）がフランドル（現在のベルギー、フランス北部にまたがる地域）出身の画家ランブール兄弟（ポール、エルマン、ヨハン）に発注した世界で最も美しいとされる彩飾写本です。

1416年に奇（く）しくも、発注者と制作者 3 兄弟がともに死亡し、15 世紀末に別の画家が完成させました。

1 ページのサイズが 29 × 21 cm で、206 葉の最高級の羊皮紙（ようひし）と呼ばれる紙で構成され、見開きの左ページが「月暦図」で、右ページが暦です。

600 年前の 12 か月を月ごとの風景と人々の暮らしの様子が色鮮やかに描かれています。

今回から 4 回にわたりその月暦図とそれに合う俳句をお届けします。

今回は 4 月、5 月、6 月の「月暦図」と俳句です。

お楽しみください。

※時祷書とは基督教の裕福な貴族や市民が日々の宗教的なおつとめをこなすための祈りのハンドブックのようなもの。

1. 4月「王子の婚約」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Les_Tr%C3%A8s_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_avril.jpg

4月「王子の婚約」

穏やかな陽光の下、野につどう人びとが描かれています。
司祭にうながされ、貴族らしき男女が指輪を交換し、婚約の誓いをかわしているようです。
男性はこの国の王子、女性は当時袴書を発注したベリー公の孫娘とも伝えられています。
男性は瑠璃色のガウンをまとい、女性は瑠璃色をやや薄くしたドレスに赤い珊瑚（さんご）のアクセサリーを身につけています。

瑠璃はラピスラズリという人類に最初に認知され利用された鉱物で、宝石として、パワーストーンとしてまた顔料ウルトラマリンの原料として珍重されてきました。
ラピスラズリの魅力は、何といても深く濃いブルーにあります。
吸いこまれそうな瑠璃色。
男性のガウンには金色の王冠らしき刺繍（ししゅう）が施されています。



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Wiki-c-ooruri.jpg>

ここではカップルがまとっている瑠璃色の衣装から発想を飛ばし、瑠璃色の背中、白いおなかというはっきりとしたコントラストを持つ大瑠璃（おおるり）を俳句の題材に取りあげてみます。

大瑠璃はヒタキ科の鳥で、雄は鮮やかな瑠璃色、雌はオリーブ褐色で地味です。
夏鳥として日本に4、5月に渡来し、溪流沿いの山地や丘陵に棲息し、高い樹の梢で高く澄んだ美しい声でゆっくりと「ピーピールリ」とさえずり、終わりにジャジャと濁音をつけます。
さまざまな替え歌をもっていて、その美しいさえずりによって鶯（うぐいす）、駒鳥（こまどり）とともに日本三鳴鳥の一つです。
また、青い鳥の御三家として大瑠璃、小瑠璃（こるり）、瑠璃鶇（るりびたき）があります。

ここでは三夏の季語である「大瑠璃」「瑠璃鳥（るりちょう）」を詠んだ句をあげてみました。

瑠璃鳥の色のこし飛ぶ水の上

長谷川かな女（はせがわ かなじょ）（1887-1969）

この沢やいま大瑠璃のこゑひとつ

水原秋櫻子（みずはらしゅうおうし）（1892-1981）

2. 5月「若葉狩り」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Fr%C3%A8res_Limbourg_-_Tr%C3%A8s_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_-_mois_de_mai_-_Google_Art_Project.jpg

5月「若葉狩り」

音楽隊がトランペットを吹き鳴らし、馬で森を行く人びとは華やかに装い、木の枝や花を輪にして身を飾っています。

馬にも若葉色の馬具が装着されています。

宮廷の年中行事で「若葉狩り」と呼ばれた春の祭典です。

色彩あふれる壮麗な行列からは人びとの語らいの音が聞こえてくるほどの出来映えです。

14世紀から流行したフランス貴族の衣装の定番は、大袖のついた長くゆったりとしたフープランドという衣装で、袖口から流れる曲線のシルエットが何とも優雅です。

若葉の装飾を身につけることは、男性は「恋の不意打ちを食らわせませぬ」というメッセージがこめられ、女性は「愛を受けいれる準備がととのいました」ということを意味するそうです。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Vue_sur_la_maison_du_jardinier_au_parc_de_Bagatelle.jpg

パリにあるブローニュの森の若葉につつまれたバガテル庭園：

庭師の家。バガテル城には1848年から、パリで育った親仏イギリス人第4代ハートフォード侯爵リチャード・シーモア＝コンウェイ（fr）が居住しました。

ここではこの絵そのものの初夏の季語「若葉」を季題に取りあげました。

初夏は全ての木々が新しい艶やかな葉を吹き出したようにつけます。

若葉を季語に詠む場合、視野に入るすべての木々を詠む場合と、樹木によってその緑の色合いや立ち姿が異なるので「樟（くす）若葉」「椎若葉」「榿若葉」など木の名前によって区別して用いる場合もあります。

また、場所によって「里若葉」「寺若葉」「庭若葉」などと詠まれたり、晴雨、気温に応じて「若葉風」「若葉雨」「若葉寒」などと用いられます。

ここでは気象関連の句を取りあげました。

幼な子はたつぷりと寝よ若葉雨

辻田克巳（つじた かつみ）（1931-2022）

クレッシエンドデクレッシエンド若葉風

加藤あけみ（かとう あけみ）（1952-）

3. 6月「夏草の刈り入れ」



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Les_Tr%C3%A8s_Riches_Heures_du_duc_de_Berry_juin.jpg

6月「夏草の刈り入れ」

6月24日は、ヨルダン川でイエス・キリストに洗礼を施した洗礼者ヨハネ（福音書を書いたヨハネは別人）の誕生日です。

キリスト教で、誕生日が聖名祝日となっているのは、イエス・キリスト、聖母マリア、そしてこの洗礼者ヨハネの3名だけです。

時祷書の各月の挿絵には、その月の一番大切な農作業が描かれています。

当時の農作業の時期はキリスト教の行事が目安になっていて、夏至の時期に近い聖ヨハネ祭が近づけば、夏草の刈り入れを始めました。

画面奥では男たちが鎌をふるい、画面手前には刈り取った夏草を集める女たちの姿が見えます。

後方の城はパリの中心部のシテ島にあった王宮です。

王宮の中にも農園があり、外敵に対し、城内に立てこもり応戦する準備もできていたのです。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Sandro_Botticelli_013.jpg

『洗礼者ヨハネ』 サンドロ・ボッティチェリ (1445-1510) 画 (1484～1485)



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Pieter_Bruegel_the_Elder_-_The_Sermon_of_Saint_John_the_Baptist.j](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Pieter_Bruegel_the_Elder_-_The_Sermon_of_Saint_John_the_Baptist.jpg)

[pg](#)

『説教をする洗礼者ヨハネ』ピーテル・ブリューゲル（1525-1530頃）画

キリスト教受容前のヨーロッパで夏至の時期に行われていた Midsummer Day と聖ヨハネの誕生日とが結びついた聖ヨハネ祭は夏のクリスマスとも呼ばれます。

太陽が夏至で頂点に達した後、冬至に向けて日が短くなるため、この祭には、太陽に力を与えるたき火が付き物であり、また、その火によって今後を占ったり、火のまわりを踊ったりして、健康と幸福を祈ります。

また、1024年にイタリアで行われた聖ヨハネ祭で歌われた賛歌の各行頭がドレミ音階の始まりとされています。

時禱書の絵も動きを合わせ、踊るように楽しく農作業をしているように見えます。

ここでは、三夏の季語「夏草」と仲夏の季語「聖ヨハネ祭」を取りあげました。

雨来るか夏草のこの濃き匂ひ

有働 亨（うどう とおる）（1920-2010）

聖ヨハネ祭金星いよよ大粒に

永方裕子（ながえ ひろこ）（1937-）

私も5月「若葉狩り」から一句詠んでみました。

グランピングこの谷若葉独り占め

白井芳雄

今回は『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』月曆図と俳句ーその1として4月・5月・6月をお届けしました。

全体を通じての参考文献、出典：エルンスト・Hゴンブリッチ著

(翻訳 天野衛、大西広、奥野臯、桐山宣雄、長谷川摂子、
長谷川宏、林道郎、宮腰直人)

『美術の物語』(河出書房新社)(2022年)

ISBN978-4-309-25628-3

高橋明也責任編集

『ART GALLERY テーマで見る世界の名画

7 風俗画 日常へのまなざし』(集英社)(2018年)

ISBN978-4-08-157077-5 C0371

宮下志朗著

『カラー版 書物史への扉』(岩波書店)(2016年)

ISBN978-4-00-061134-3

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』(講談社)(2008年)

ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』(KADOKAWA)(2022年)

ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』(KADOKAWA)(2022年)

ISBN978-4-04-400499-6 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア(Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町2-18 南森町共同ビル 3F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com